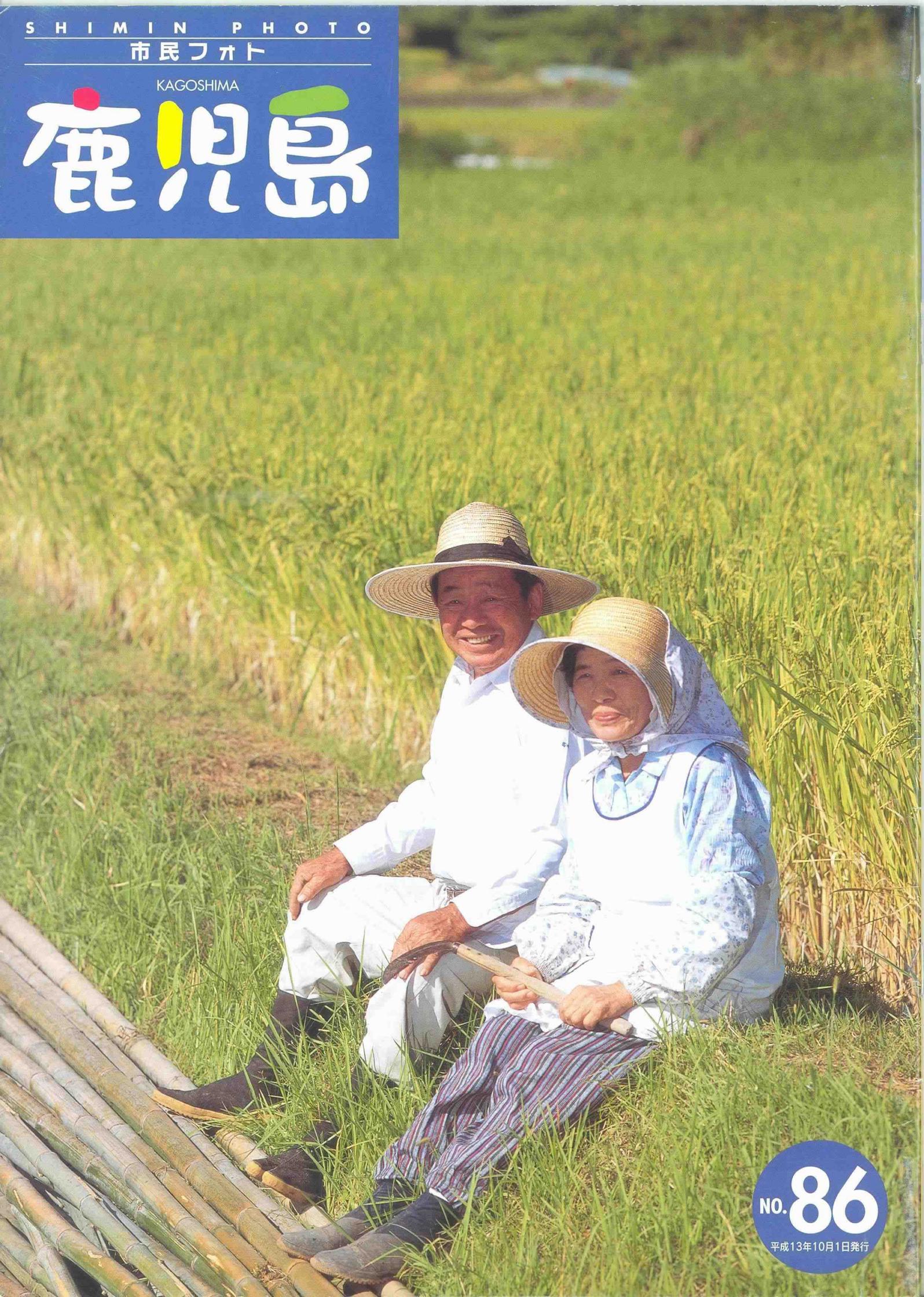


S H I M I N P H O T O

市民フォト

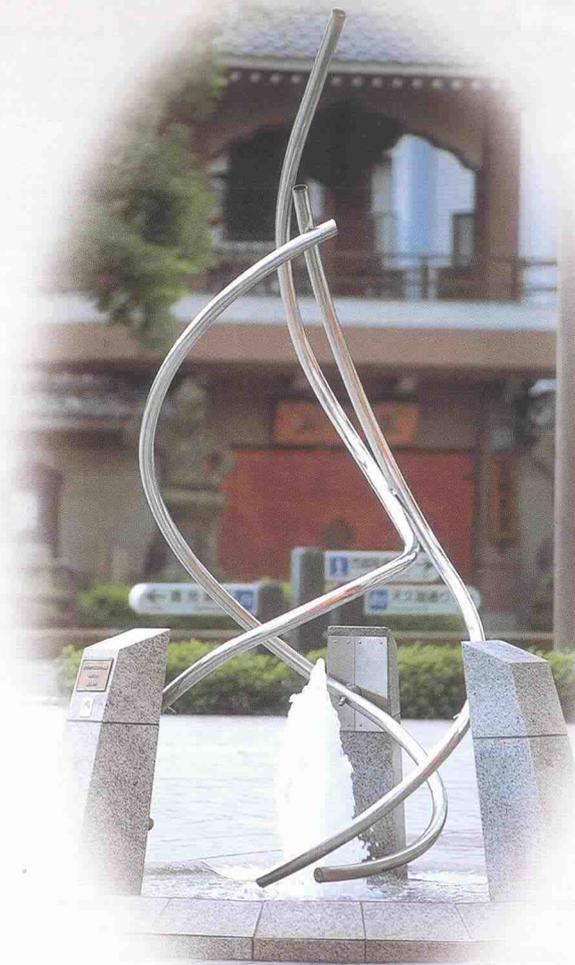
KAGOSHIMA

# 鹿児島



NO. 86

平成13年10月1日発行



噴水彫刻  
【曲線三つ】  
～山下町～

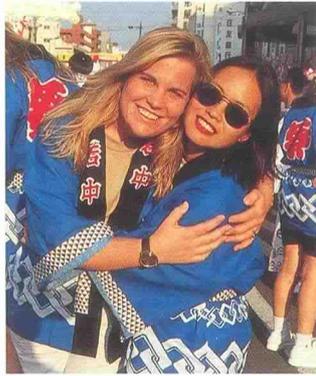
## CONTENTS

「特集」おはら祭 踊って踊って50年	3
クローズアップ	12
今田 真田美さん	
ハロー鹿児島	14
シャネット・ヒロミ	
シユビユールさん	
カメラトピックス	16
学校探訪	18
城西中学校	
私の好きな場所	20
福田 輝彦さん	
ふるさと再発見	22
南日本銀行本店	
あなたのフォトサロン	24
谷山写友会	
よかタイム	26
鶴田 栄男さん	
街角ウオッチング	27
星ヶ峯周辺	
道具ものがたり	28
足踏みオルガン	
館のたからもの	29
西郷南洲顕彰館	
わが町上空今むかし	30
東谷山	

### ★表紙写真説明

実りの秋。収穫を前に一息つく。ここやかな老夫婦の顔には、今年の作柄への自信がつかかえる。

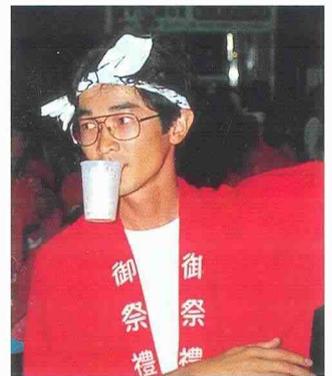
【特集】  
おはら祭



踊  
って



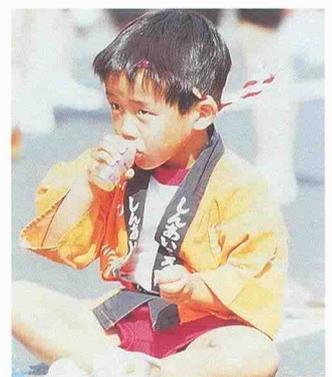
踊  
って



50  
年



人が踊り、まちが踊る。南九州最大の秋祭り『おはら祭』は、今年で50回目を迎える。踊りの熱気と沿道の観客とが一体になり、薩摩のリズムがこだまする。『おはら祭』は、戦後の鹿児島市とともに発展してきた。



# 戦後の復興の中で



(第1回)昭和24年  
祭りの呼びものは、広告仮装行列や芸能大会など。また、トラックによる「移動演劇隊」は、川上、吉野、宇宿町方面にも出かけた。写真は、市役所本館前の移動演劇隊 (写真提供: 南日本新聞社)



第3回(昭和27年)  
照国神社に向かって進む広告仮装行列。(写真撮影: 新村 ゆたか氏)

昭和24年11月15日。戦後の復興の中、おはら祭が産声を上げた。市制60周年を記念して開催された祭りは、広告仮装行列や、芸能大会などで盛り上がった。翌年は、伊敷・東桜島村との合併記念。26年はルース台風で中止。昭和27年は西郷南洲75年祭も祭りの中に織り込んだ。「おいどん祭」と名称を変えたのは29年〜31年。32年からは「おはら祭」に戻る。このような曲折の中で、次第に祭りのポルテージュは上がらなくなった。



第5回(昭和29年)  
43名の推薦応募者から選ばれた「ミスおいどん祭」の上萩さん(中央)、準ミスの持留さん(右)と森永さん(左)。  
写真下は審査風景。(写真提供: 県立図書館)

# 高度成長とともに

時代は高度成長期を迎える。昭和36年、祭りが大きく変わった。徳島の阿波踊りを手本に、現在の踊り連方式を取り入れて大成功。町内会や職場グループなどからの参加者が急増し、南九州最大の祭りへの第一歩を踏み出した。11月3日が祭りの日と決まったのは、昭和43年。また、47年には太陽国体の前夜祭として天文館通りをパレードした。



第13回(昭和38年)  
西鹿見島駅前の踊り連。中央に噴水、写真奥にはナポリ通りが望める。



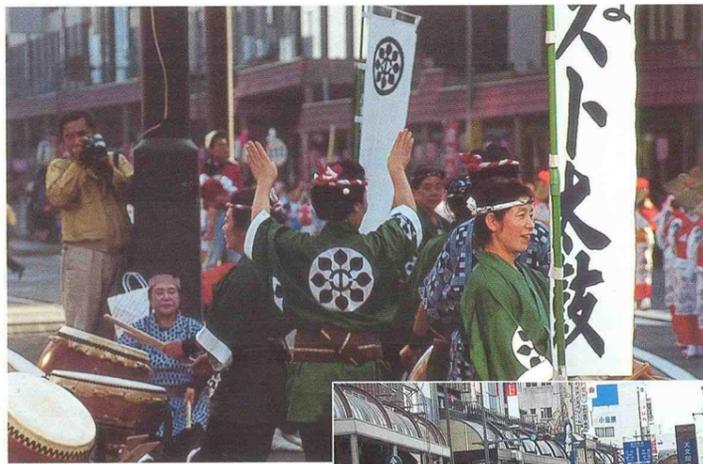
第15回(昭和40年) 県立図書館(現県立博物館)横を照国神社に向かって踊る易居町愛護連。



第17回(昭和42年)  
この年谷山市と合併。新鹿見島市発足記念・明治100年前年祭として実施。



第22回(昭和47年)  
太陽国体の日程の都合で、国体前夜祭は10月21日に行われた。



第40回(平成3年)  
「おはらおごじょ太鼓」が初登場。  
祭りの新たな目玉となる。



第42回(平成5年)  
災害にもめげず、盛大に繰り広げられ、鹿児島市民の底力を感じさせた。



第46回(平成9年)  
夜祭りには77連、5859人が参加した。



第1回「渋谷・鹿児島おはら祭」(平成10年)  
4月12日渋谷に登場。鹿児島からと現地の県人会などを合わせて約2400人が参加。

◀第49回(平成12年)  
市が募集したヤング踊り連には、68人が参加。  
沿道の注目を集めた。

## 新世紀への幕開け

平成3年、観客数は60万人を突破した。

平成5年、100年に一度といわれる未曾有(みぞう)の豪雨災害が鹿児島市を襲った。しかし祭りがその苦勞をいやした。また、東京の渋谷を祭り一色に染め上げる「渋谷・鹿児島おはら祭」が始まったのは平成10年。

今年の第49回には、ヤング踊り連が初登場。おはら祭を21世紀へつなぐエネルギーを感じさせた。

第50回目のおはら祭は、新しい世紀の幕開けを飾る。

## 昭和から平成へ

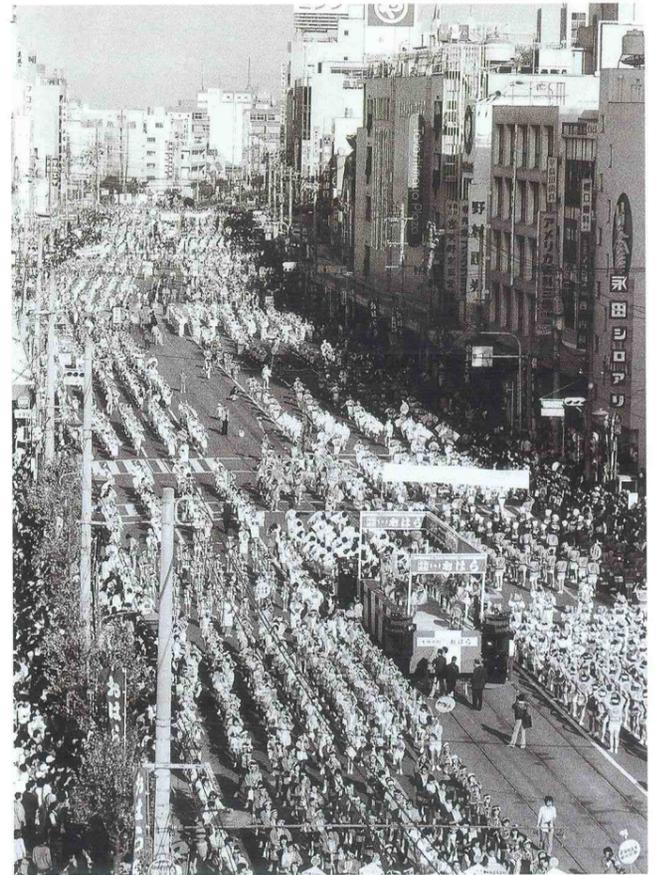
昭和55年、市の人口は50万人を超えた。昭和57年は友好都市締結記念で、中国長沙市友好代表団が参加。昭和59年にはコアラ歓迎記念として開催した。

時代が平成に変わってもおはら祭は発展を続ける。

平成2年には、西ドイツ(当時)のフランクフルト市でおはら祭ヨーロッパ交流団が出張披露。熱狂的な歓迎を受けた。この年は姉妹都市となったマイアミ市使節団が来鹿して祭りに華を添え、一段と国際色が強まった。



第30回(昭和55年)  
沿道を見物客が埋めつくす。迷子預かり所も大忙し。



第30回(昭和55年)  
50万都市誕生記念として開催。夜祭りと合わせて191の踊り連、15,195人が参加。



第32回(昭和57年)  
熊清泉市長をはじめとする長沙市友好代表団、シンガポール親善訪問団なども参加。



第34回(昭和59年)  
コアラの雄2頭が来鹿したのは10月25日。コアラの看板を掲げて踊るグループもあった。



第39回(平成2年)  
マイアミ市使節団も参加し、祭りを通して、市民とふれ合った。



昭和34年  
文化通りで踊る西鹿浦谷婦人会



昭和40年 西鹿児島駅前



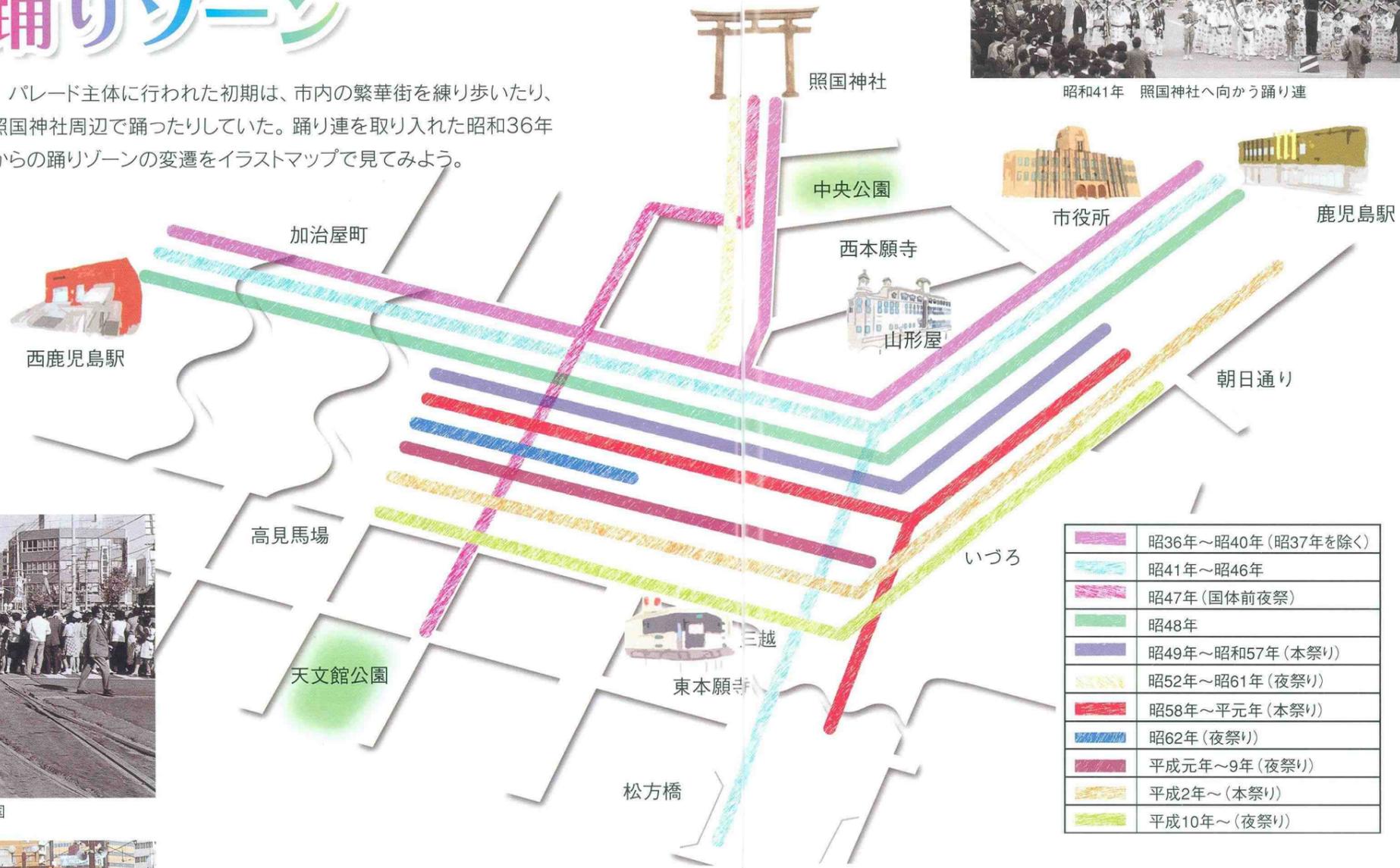
昭和48年 初の歩行者天国



平成11年 いづろ通り交差点

# おはら祭 こんなに変わった 踊りゾーン

パレード主体に行われた初期は、市内の繁華街を練り歩いたり、照国神社周辺で踊ったりしていた。踊り連を取り入れた昭和36年からの踊りゾーンの変遷をイラストマップで見てみよう。



紫	昭36年～昭40年(昭37年を除く)
青	昭41年～昭46年
緑	昭47年(国体前夜祭)
黄	昭48年
赤	昭49年～昭和57年(本祭り)
紫	昭52年～昭61年(夜祭り)
青	昭58年～平元年(本祭り)
赤	昭62年(夜祭り)
黄	平成元年～9年(夜祭り)
青	平成2年～(本祭り)
赤	平成10年～(夜祭り)

平成10年	夜祭りを高見馬場、朝日通り(900メートル)に延長	現在まで続く
平成2年	いづろ交差点から大門口通りを取りやめ、高見馬場、棧橋通り(1480メートル)のL字型に変更	
平成元年	夜祭りを高見馬場、いづろ交差点(740メートル)に延長	
昭和62年	夜祭りを高見馬場、照国通り交差点(540メートル)に変更	
昭和58年	高見馬場、朝日通り、大門口通り(1250メートル)のT字型ゾーンで実施	
昭和52年	初の夜まつり実施(照国通り)430メートル	
昭和49年	高見馬場、朝日通り	
昭和48年	高見馬場、朝日通りを歩行者天国に	
昭和47年	国体前夜祭として実施	
昭和41年	鹿児島駅、西鹿児島駅、松方橋から照国神社へ	
昭和38年	西鹿児島駅、市役所前に変更	
昭和37年	西鹿児島駅、市役所前に変更	
昭和36年	進行コース2カ所方式	
昭和36年	鹿児島駅と西鹿児島駅からそれぞれ出発し、照国神社へ	



昭和41年 照国神社へ向かう踊り連

## 時代が見える 花電車

おはら祭の名脇役花電車は第1回目からお目見えている。車体を彩る「花」のようすにその時々時代を感じ取ることができる。



昭和24年11月22日～23日  
市制60周年記念の花電車が2両運行。造花で飾られ、まさに「花電車」。



昭和53年の花電車 宝船をイメージして装飾されている。



平成12年 夜まつりに登場した花電車。アニメキャラクターが電飾で彩られ、輝いている。



昭和60年の本祭り

## 市長に聞く

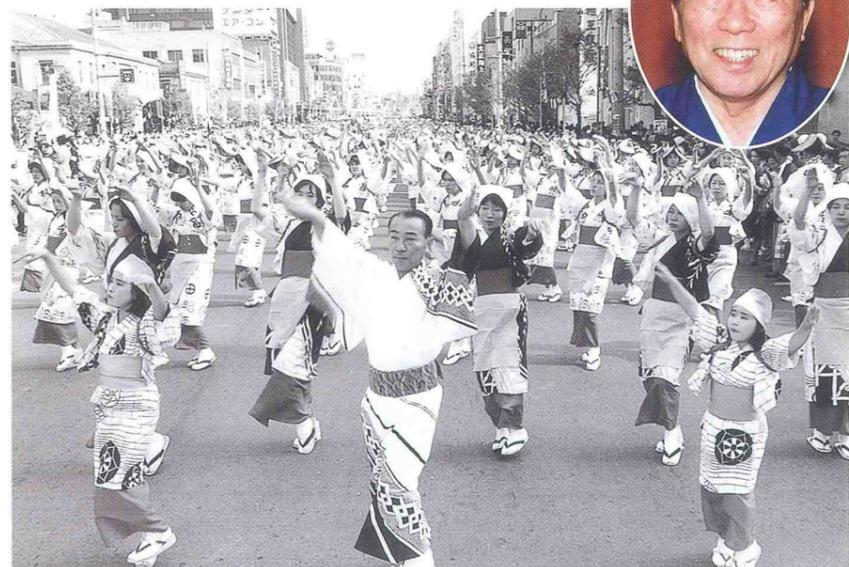
### 振る舞い酒を

#### 飲んで景気よく

私がおはら祭に参加したのは、市職員のとときに、市役所の踊り連で踊ったのが初まりですね。振る舞い酒を飲みながら、元氣一杯に踊りました。上手に踊るといふことよりも、職場のみんなと一緒に祭りを楽しむ気持ちでした。市長になつてからも、市民の皆さんと楽しむことを第一にしています。

## 田上町 原田 政徳さん

昭和28年から連続参加しています



「鉄道管理局連」を率いて先頭を踊る原田さん(昭和40年代後半)

鹿児島鉄道管理局に志布志から転勤したのが昭和27年でした。翌年職場の舞踊班を作つて参加したのが始まりです。私たちの職場ではほぼ全員が参加。綾木流という踊りの家元もしていましたので、職員の住む官舎まで出向いて奥さんたちまで引つ張り出して指導したものです。

また、リヤカーに積んだ蓄音機でおはら節のレコードをかけながら、西鹿児島駅から国神社まで踊つたこともあります。参加者が少なかった時代は伸び伸びと踊れました。祭りを本当に楽しめたように思います。これからも、できる限り踊り続けていきますよ。

## 祭りで踊る・祭りを支える



## 樋之口町 前園 君子さん(右) 平之町 勝目えつ子さん(左)

お囃子や三味線が街中に響く



平成元年(第38回)のおはら祭で、演奏する前園社中

おはら節やハンヤ節を歌い、お囃子や三味線、太鼓や鐘で祭りを盛り上げる地方(じか)が私たちです。立方(踊る人)に合わせて演奏するのは難しいですね。三味線だけでも10人以上。音がずれないように毎年本番前に3〜4回全体練習をします。演奏時間を正確にするのに本番でストップウォッチを使ったこともありましたが、全員が身内のようなもので、親子2代の地方も3組います。このチームワークでお囃子や三味線を街中に響かせます。今年も精一杯歌い、演奏して、おはら祭を支えます。

今年(第49回)の記念すべき祭りだから、うんと盛り上げたいですね。

### 市民が主役の

#### 手づくりの祭り

おはら祭の魅力は、町内会や職場グループ、幼稚園や保育園など、子どもから大人までだれもが主役として踊れることですね。また、市外や県外からの参加者をはじめ、外国からの参加者が多いことも特徴の一つです。沿道の観衆と一体になった、おはら節やハンヤ節が繁華街にこだまし、「まちが踊る」にぎやかさを見たくて多くの市民や観光客が見物に押し寄せてくるのだと思います。

### わがまち・ふるさとの

#### おはら祭

おはら祭の歴史は、戦後の鹿児島市の発展の歩みだと思えます。50回も続いたのは、市民の皆さんが手づくりの祭りとして、市民の手で育ててこられたからでしょう。また、春の渋谷かごしまおはら祭は、東京の人にもふるさとを思い出していただく良い機会になっています。



昨年(第49回)の夜祭り

豊かな祭りになるでしょうが、昨年からは始まったヤング踊り連など、次代の主役となる若者たちが大勢参加して「わがまちかごしま」のおはら祭を盛り上げていってもらいたいですね。

# 障害って、その人の個性って

「じつですよね」



鹿児島国際大学2年

## 今田 真由美さん

**略歴** 鹿児島市生まれ。神村学園高等部医療福祉科在学時硬式野球部に所属、全国高等学校女子硬式野球大会で優勝。「文の甲子園」にもチームメイトとともに出場し優勝、個人特別賞受賞。「NHK青春メッセージ2000」で大賞受賞。現在、鹿児島国際大学社会学部、軟式野球部所属。著書に「18歳、青春まっぐら」(ポプラ社)。

真由美さんは生まれつきほとんど耳が聞こえない。しかし「それが、大変なハンディだとは思ってない」という。彼女が心からそう思うようになったのは、高校で野球に出会ってからだった。

### 野球が私を変えた

「高校に入るまでは、無意識に耳が聞こえないことを言い訳に、甘えてた」という彼女に発想の転機を与えたのが野球部のチームメイトだった。



▲何でも言い合える仲間たち。優勝の記念写真。

「練習で私がエラーをしたんです。すると、その時補欠で見ていた同級生から注意されて。私は「聞こえなかったんだもん」と言い訳したんです。そしたら、なら出て行けーって怒鳴られました。すごくショックでした。けど、改めて思い返すと、彼女は私を障害者だから、という目でみてなかったから言えたことだったんです。その時、私もみんなと一緒に「なんだったか気付いたんです」

「障害ってことを考えました。野球ができないこと、手話を話せないこと、何かしらみんなできないことがあつて、それは私が音を聞くことができないうのと同じなのではないかな、その人の持つ個性ってことかな、と思うようになったんです」

厳しい練習とチームの強い絆で、全国制覇も達成した野球は、真由美さんにとって特別。「男も女も、障害のあるなしも関係なく、真つ白な気持ちでみんなが一つになれる」野球が大好きだという。今でもバットを思い切り振るとき、いろんな悩みやストレスも一緒に飛ばしている。

### 尊敬する両親のもとで

彼女の両親もまた聴覚に障害がある。「両親も苦労してきた分、小さいころから言葉を覚えさせるためにさまざまな工夫をして育ててくれましたね。自分たちも聞こえないので大変だったと思います」

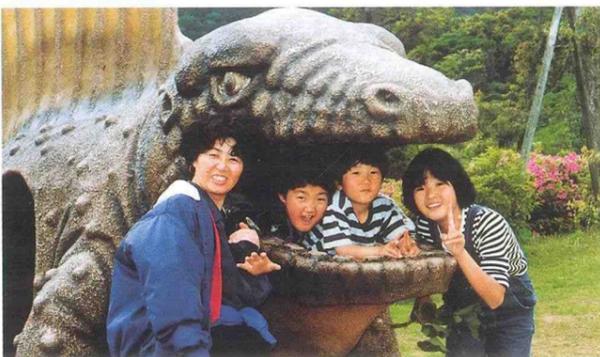
そういう両親を真由美さんは尊敬している。「ほかにも高校時代の監督もだし、世の中のお父さんお母さんも尊敬しちゃいます。家族のためにつくせるつてすごいと思いませんか」

そんな素直な気持ちで生きる彼女の言葉だから、真つすぐに人の心に響くのだろう。

### 新しい扉を開く

現在、学業のかたわら各地の聴覚学を校を訪れて勉強したり、講演を行ったりと忙しい日々。「今できること、今しかできないことを一生懸命したい」と、興味のあることにはどんどん挑戦している。

たくさんのお会いや出来事がある中、高校時代の監督の「努力と感謝



▲幼いころ家族で遠出したときの一枚。両親は真由美さんたちの好奇心を引き出すために、いろいろな所に連れて行った。

「何でも最初から無理だなんて思わないで、大丈夫、きつとやれるって思うことにしています。母もずっと私に言い続けてくれたことですから」

その気持ちが次々と新しい扉を開いていくのだろう。





### 【ゆかりの地、鹿児島】

「母がこちらの出身なので。留学先に鹿児島を選んだ理由だ。」

「実は私、市立病院で生まれたんですよ。一歳で鹿児島を離れ、チューリッヒ近くの小さな街ビュラハで育つ。高校卒業直後の今年二月、自分の生まれた街をもっとよく知りたくて、鹿児島に来た。」

「暖かいと聞いていたので、春物の服を持って来たのに、寒くて。明るい雰囲気、丁寧な受け答え、そしてほっとする笑顔。それらすべてが彼女の魅力だ。」

### 【日本通の父の影響】

スイス人の父は日本が好き。その影響で子どもの頃から合気道をしてきた。せっかく日本にいたので本格的に学びたいが、勉強にアルバイトに忙しい毎日では難しい。

しかし、同じく父の勧めで始めた茶道には、週一回通っている。「父は、私がおしとやかに帰ってくるのを期待してるみたい。でも、どうかな」

## 「鹿児島生まれのスイス育ち 自分の生まれた街を もっと知りたかった」

あ。いたずらっぽく笑って見せた。

### 【目を見張る茶道の腕前】

「二服差し上げます」。彼女のお手前が始まる。茶道具を手取る指先の緊張感。「お背中曲がらないように」。島田宗曉先生の優しい声が響く。

「手つきがきれいでしょ。真剣さも伝わってきます。帰国したら、お父さまにも教えてあげられるわね」。先生の柔らかな視線が彼女に向けられる。

茶道の好きなどころは？と尋ねると、落ち着くところと答えた。「それにこうやって、皆さんと一緒にいろんな話をしながらできることが、何よりも楽しい」。

### 【夢ははるか彼方まで】

「成人式に振りそでを着てみたい」。その希望は、年明けにかなうはずだ。将来はイギリスかカナダで、英語力にさらに磨きをかけたいと思っている。

そして、大きな夢がある。「国連で働きたい」。恵まれない子どもたちを助ける仕事がしたい、という。実現でき



シャネット・ヒロミ・シュピューレルさん  
【スイス出身】

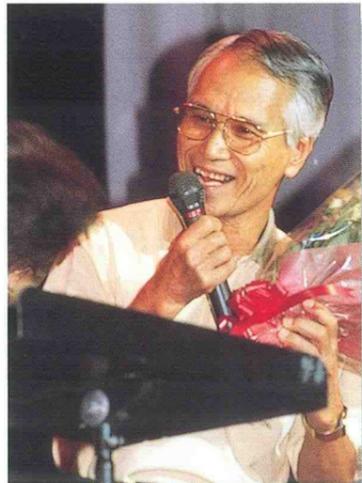
HELLO  
KAGOSHIMA  
ハロー鹿児島

### シャネットさんと話そう

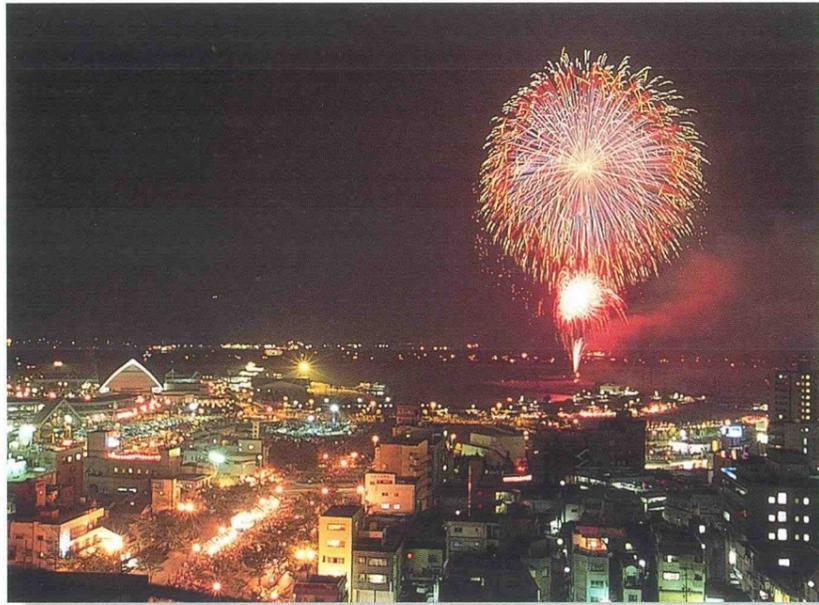
- Gruezi! こんにちは
- Danke!/Merci! ありがとう
- Wie g'hats Inne? 元気ですか



▲ハス(鶴丸城跡)



◆8月26日~9月1日 第15回 長才まつり恒例ののど自慢大会やゲートボール大会も行われ、「シルバー映画祭」のトークショーには女優の平良とみさんも参加。



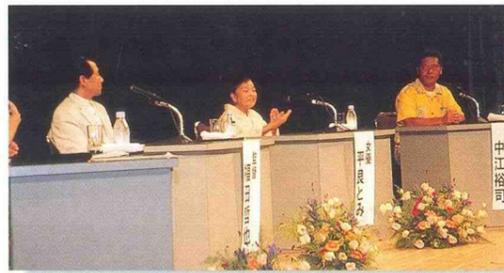
▲8月25日 第2回かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会  
昨年からはまった新しい夏のイベント。県内外から多くの見物客が訪れ、夜空に上がる1万3千発の花火に酔いしました。



▲8月17日 鹿児島文化交流協議会市長表敬  
おはら節や太鼓の演奏などを通して、中国長沙市と交流している同協議会が帰国報告をしました。



▲ハイビスカス(与次郎二丁目)



▲9月6日 敬老訪問  
長寿日本一114歳の本郷かまどさんをはじめ、米寿や白寿の皆さん989人の長寿をお祝いました。



▲9月2日  
10日の下水道の日を前に、南栄二丁目の南部処理場でイベントがあり、家族連れなどでにぎわいました。



◀ワシントンヤシ(与次郎二丁目)



▲7月21日 鹿児島市の教育を考える市民会議  
「小学生の意見を聞く会」では、子どもたちの率直な意見や質問が数多く出されました。



▲7月21日  
平川動物公園の白熊に氷がプレゼントされました。猛暑の今年は、特にうれしかったようです。



▲8月2日 こどもまちづくり探検隊  
小学5年生から中学生までの「隊員」たちが、自分たちの住むまちを探検し、まちづくりを考えました。



◀7月10日 磯海水浴場海開き  
清水・大龍小学校の児童による泳ぎ初めがあり、子どもたちは歓声を上げながら、海に飛び込んで行きました。



◀7月18日 南洲神社六月燈



◀ひまわり(都市農業センター)



▼7月18日  
交通遺児に対する見舞品贈呈式  
交通事故で親を亡くした小・中学生の代表へ、見舞品と励ましの言葉が贈られました。



◀昨年の文化祭で製作された「田村選手優勝」の図。小さな紙をコンピュータで計算して張り合わせた。今年の文化祭でも3年生が挑戦。



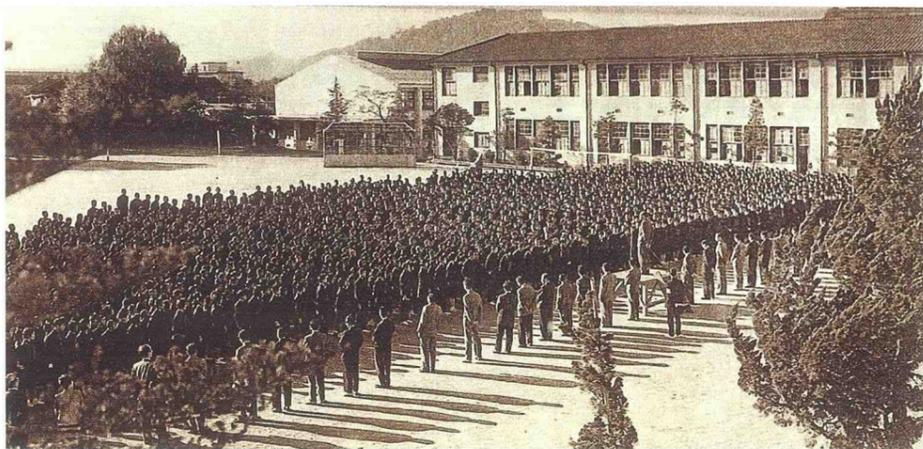
▲体育館やプール、弓道場は、市道をはさんで配置されている。



▲吹奏楽部は、8月に鹿児島アリーナで開かれたマーチングフェスティバルに出場した。



▲部活動は活発で、県下トップクラスの成績を納めている部も多い。



◀昭和38年ごろの全体朝礼。3500人前後の生徒数を誇った。



▲ALTのジェニファー先生は、イギリスからこの9月に赴任したばかり。



▲3年ほど前の校舎改造の際、設置された木製いすのある休憩スペース。生徒たちが語り合う城西中自慢の空間。



▲クラスの息はぴったり。さわやかなコーラスが音楽室に響く。



▲IT時代には、パソコンの授業も不可欠。



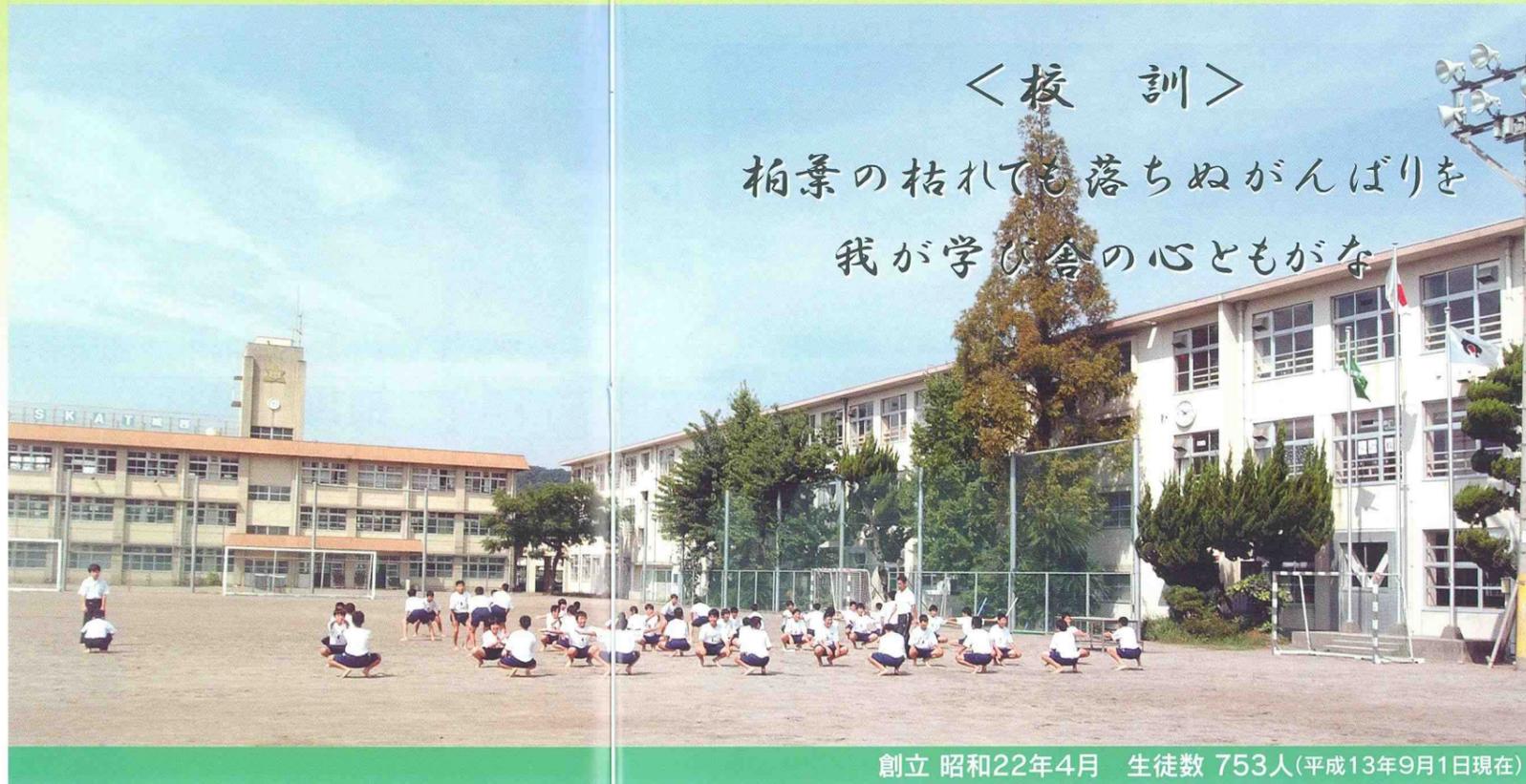
▼1分でも遅刻すると、先生の厳しい指導が待っている。



▲8時前、登校ラッシュを迎える。新照院、永吉、原良、薬師、城西、鷹師、常盤、西田が校区となっている。

## <校訓>

柏葉の枯れても落ちぬがんばりを  
我が学び舎の心ともがな



創立 昭和22年4月 生徒数 753人(平成13年9月1日現在)

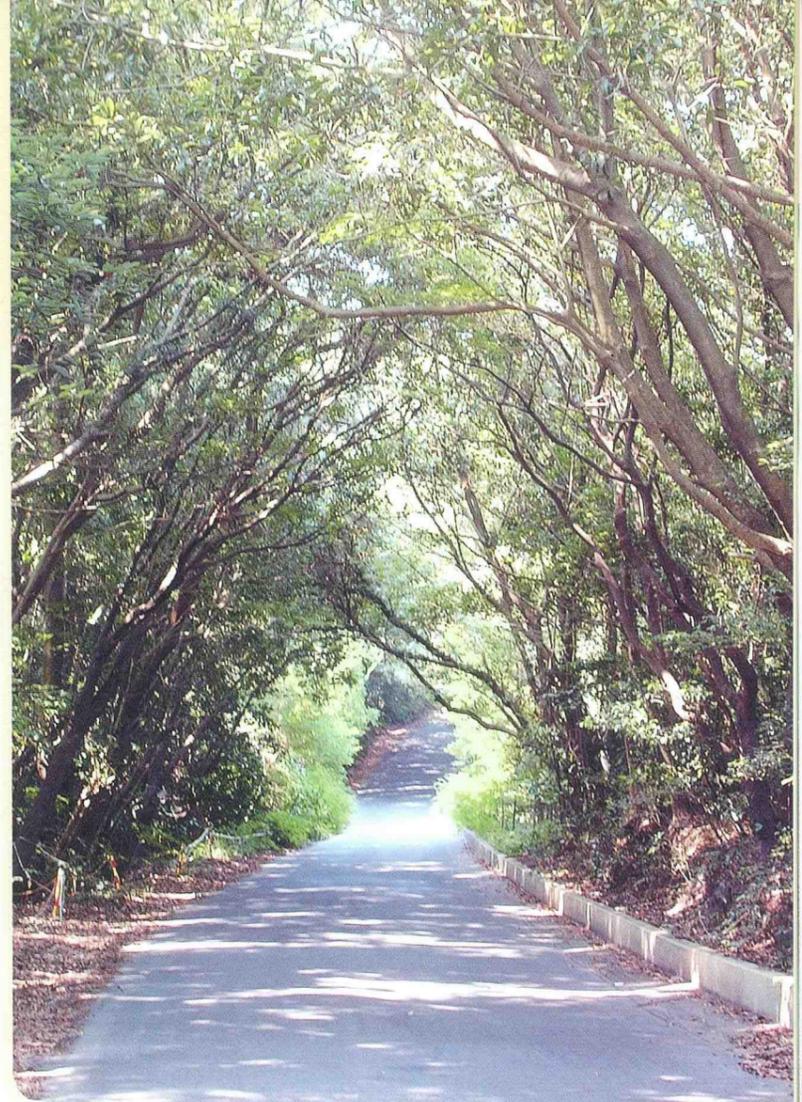


# 城西中学校



▲校庭の柏の木。校訓「柏葉の精神」は、柏の葉が枯れても新葉が出るまでは落ちないことから、頑張りや後輩をいたわるといふ友愛の精神を表す。

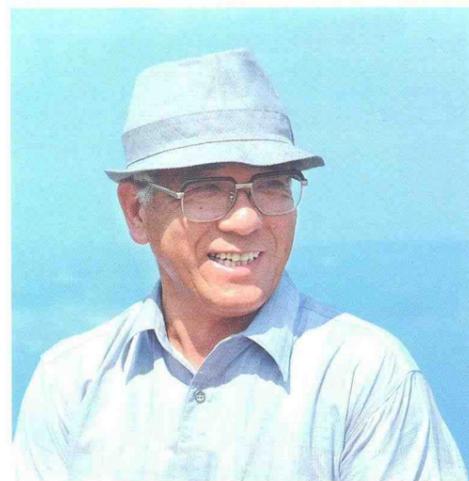
# 自然とのかかわり方を 虫たちが教えてくれる



犬迫小学校教諭  
福田 輝彦さん

## 吉野町・寺山公園

ここは市内では自然が手つかずの状態が残されているところです。蛾をはじめとする昆虫もたくさんいます。展望台へ続く遊歩道は、木々に囲まれたトンネルのようで、蝶の通り道にもなっているんですよ。ほら、今飛んでいったのはツマグロヒョウモン(蝶の一種)です。何気なく見ていると気付かないけど、いろいろな蝶が飛んでいるのが分かるでしょう。



私の好きな場所  
My favorite Place

もう少し歩くと錦江湾や桜島が一望できる展望台に着きます。

以前は蝶の研究をしていました。五、六年前からは、主に蛾の研究に取り組んでいます。何しろ種類が多くて美しいので、その生態に興味を持ちました。

蝶は約二百五十種類ですが、蛾はなんと約五千種類もいます。私がいかに見たのは、そのうちの約二千種類ぐらいかなあ。ここ寺山公園にも五、六百種類はいますよ。

蝶と蛾はもともと区別できない昆虫です。簡単に言えば「夜行性の蝶」が蛾ということになりますかね。しかし、蝶と違って蛾は「不気味な害虫」というイメージがあるので、蛾を研究していると「変わった人」と思われがちです。人里離れた山奥で真夜中に誘蛾灯をつけ、白いレースカーテンを広げて蛾を採集している姿は、なるほど変わった人ですかねえ。ばつたりとタヌキや野ウサギと出会うこともあります。あつちもビックリしているでしょうね。



そうそう、紫尾山で真夜中に一人つきりで蛾を採集していたとき、暴走族に取り囲まれたことがありました。緊迫した雰囲気でお話を交わしていると、ふとリーダーらしき若者が「あつ、クワガタムシだ！」と叫びました。私が偶然捕まえていたクワガタ

ムシに興味を示したんです。その後はクワガタムシ談義に話が弾みました。一見怖い格好をした少年たちでしたが、蛾と同様、外見だけで判断してはいけないんだなあと思いましたね。

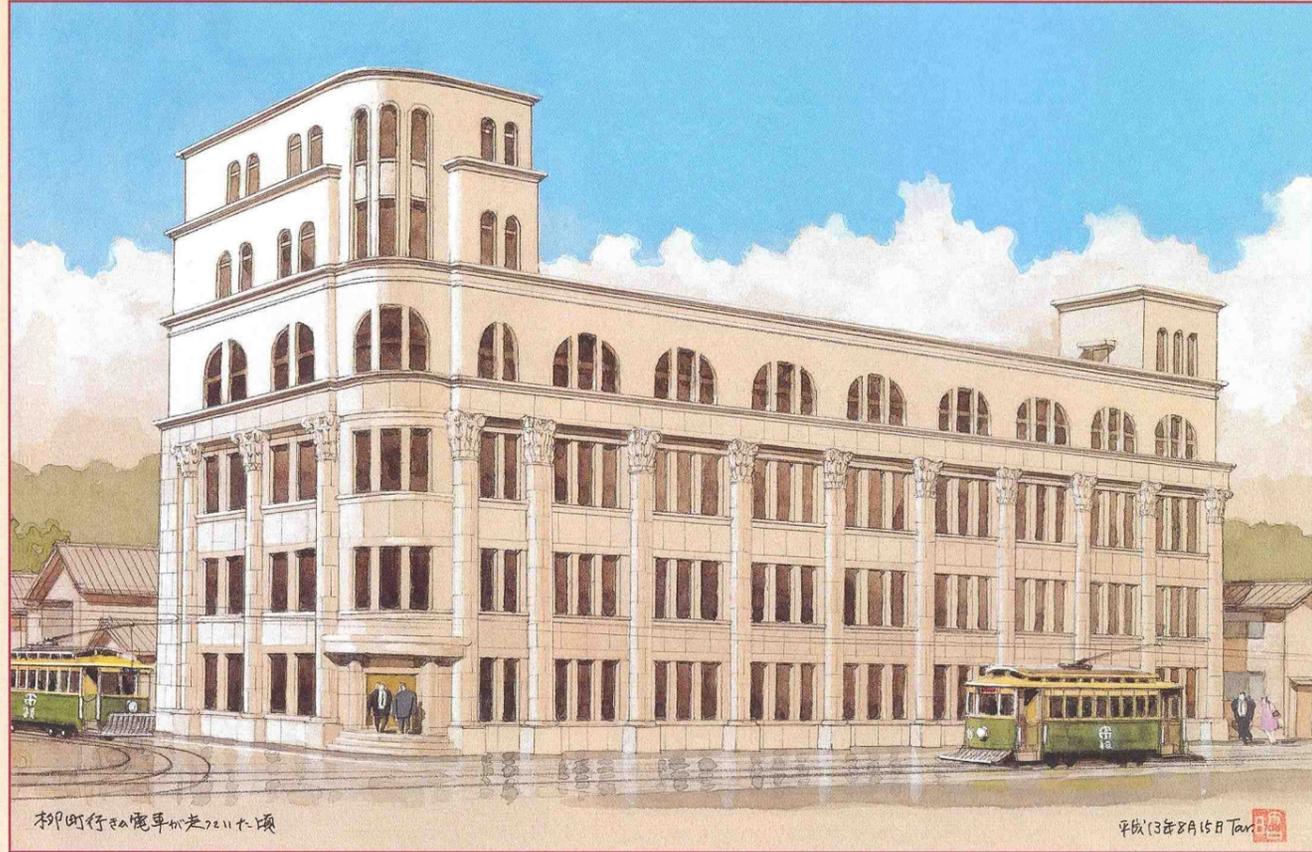
夏休みの宿題で昆虫採集をした子どももいるんじゃないでしょうか。最近には必要以上「虫を採るな」と言っていて、子どもたちを自然から遠ざけているように思います。しかし、虫を採り、育て、死に直面することで、子どもたちは多くのことを経験し学ぶはずです。

夕暮れ時にウスバキトンボなどの赤とんぼが飛びまわるようになりました。私たち大人は、子どもたちが虫を採ってもかまわないような豊かな自然環境を守っていくことが大切だと思います。

### 【取材メモ】

先生の自宅で標本を拝見させていただきました。きちんと整理された標本は部屋いっぱい、まるで宝石のコレクションのようでした。その標本を手に取り、ていねいにかかりやすく説明してくださる先生の目は、蛾をはじめとする昆虫たちへの愛情に満ちあふれていました。

# 戦前の鹿児島を現代に伝える銀行建築



影を付けて立面図に立体感を出していくもので、それが横浜高工流だということだった。

このあるかないかの薄墨を、根気よく塗り重ねて行く着彩法は、画面の広い範囲をムラなく塗るのに、誠に理にかなった方法で、このあと、私の彩色には欠かせない手法となっている。

この時、学校で書かされていたオーダーの同族ともいえる柱列を、その正面に並べた建物が現在の南日本銀行の本館で、昭和二十年の鹿児島島の焼け跡に残っていた、数少ない鉄筋コンクリート造建築の一つだった。

当時、鹿児島無尽と呼ばれていたこの建物は、そのころまでまだ隼人に本社を置いていた同社が、市内へ進出を図る拠点として、昭和十二年に支店を現所在地に建設したものであった。

私たちは、この横を毎日のように歩いて伊敷まで通学していたのだが、お恥ずかしいことに、これが、この時の演習課題のいい参考になるということに気付いていないというのだから、全く、お粗末さまりない学生生活だった。

ところで、明治・大正の日本の建築

**【参考文献】**  
 建築当時の雰囲気や復元すべく、作画に当たって次の図書を参考にさせていただいた。

ふるさとの想い出明治・大正昭和写真集  
 鹿児島市戦災復興誌  
 芳 即正 編  
 鹿児島市  
 鹿児島島の路面電車五十年  
 鹿児島交通局

# 南日本銀行本店

登録文化財

文／画 第二工業大学教授  
 田良島 昭

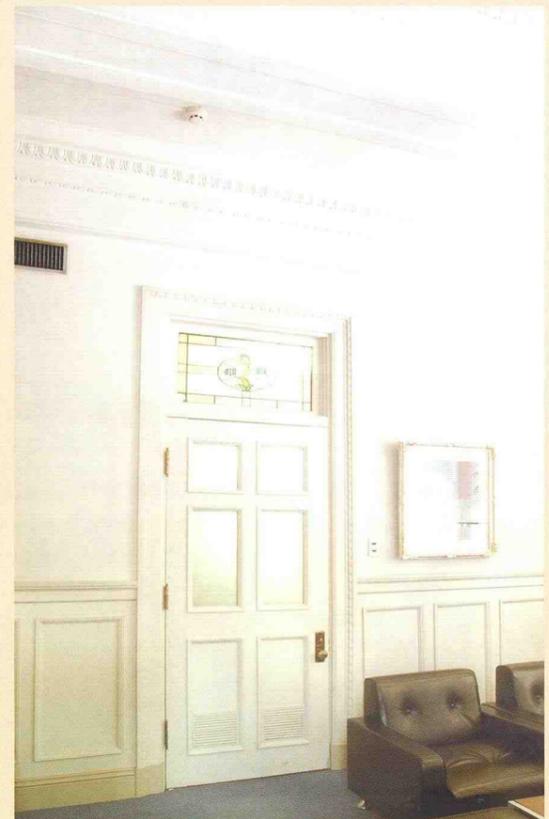
戦前は建築デザイン教育に、ギリシア建築のオーダーを模写するという課題があったというのは、当時、私たちの学校で非常勤講師をしていた、横浜高工（現横浜国立大学）を卒業された先生の話である。私たちも同じ方式だという製図の課題を、教科外の演習として課せられた。

オーダーというのはギリシアやローマ建築で使われていた、比例関係を基とする柱頭部の構成原理のことで、古典建築では美の基準とされていたものである。

紀元前九世紀ごろ発生したギリシア建築は、前六世紀から前五世紀あたり

で全盛期を迎えるのだが、その様式はこれを発生した順にドリス、イオニア、コリントと三つの時代に区分され、それぞれドリスを機能そのものの時代、イオニアを装飾的に移行する時代、コリントはデザインが過剰になってしまった時代とその様式を特徴づけ、さらに、建築のデザインというものは基本的にはこの三つの様式が繰り返されて変遷していくものだと思われた。

件の演習の時間に私たちが書かされたのは、ドリス様式の典型とされるパルテノン神殿のオーダーで、鉛筆で下書きしたあと、薄墨の濃淡で陰



建築当時の重厚な雰囲気を今に残している応接室



▲「谷山名物 そば切り踊り」 竹之下 正人さん

◀「慈眼寺公園の母子像」 曳原 六夫さん



「めぐり棒でのそば落とし」 川本 イツ子さん

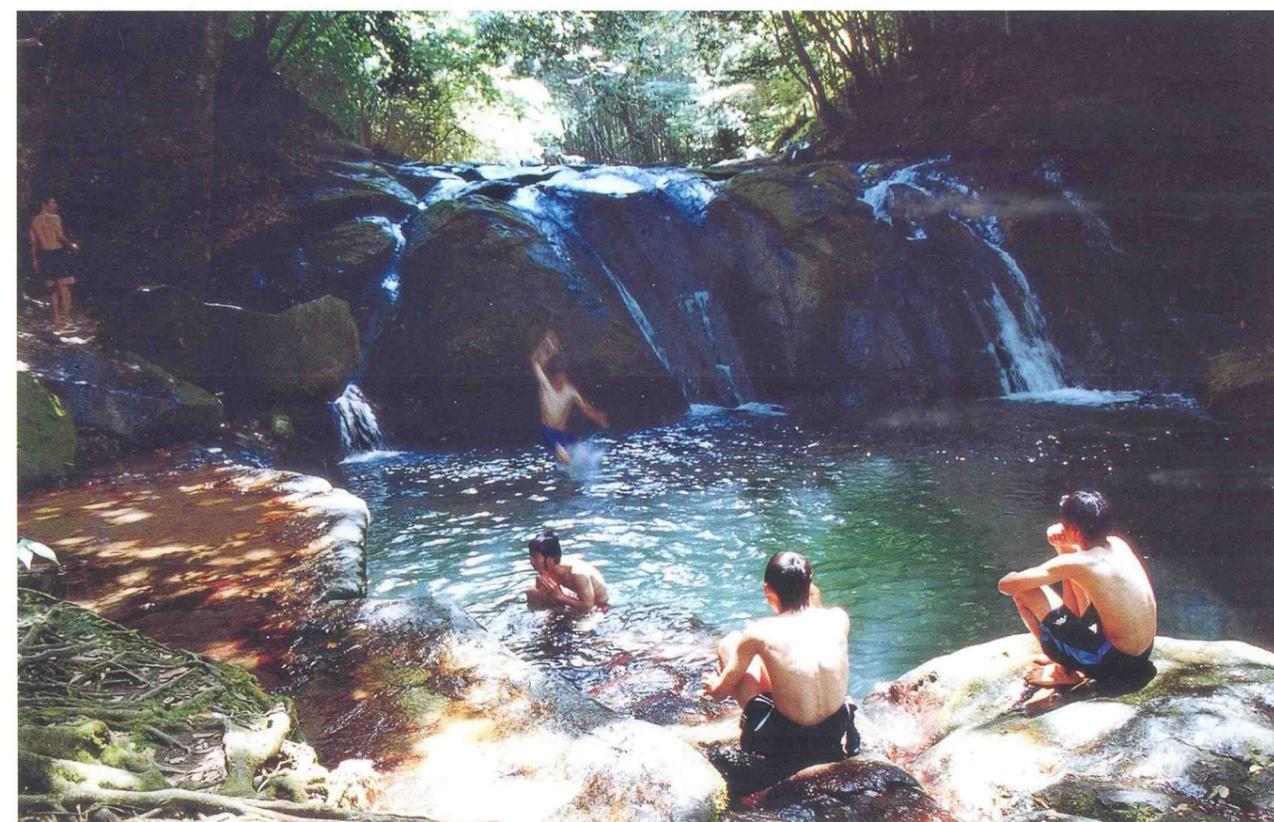


「錦江湾公園からの遠望」 久留米トシさん

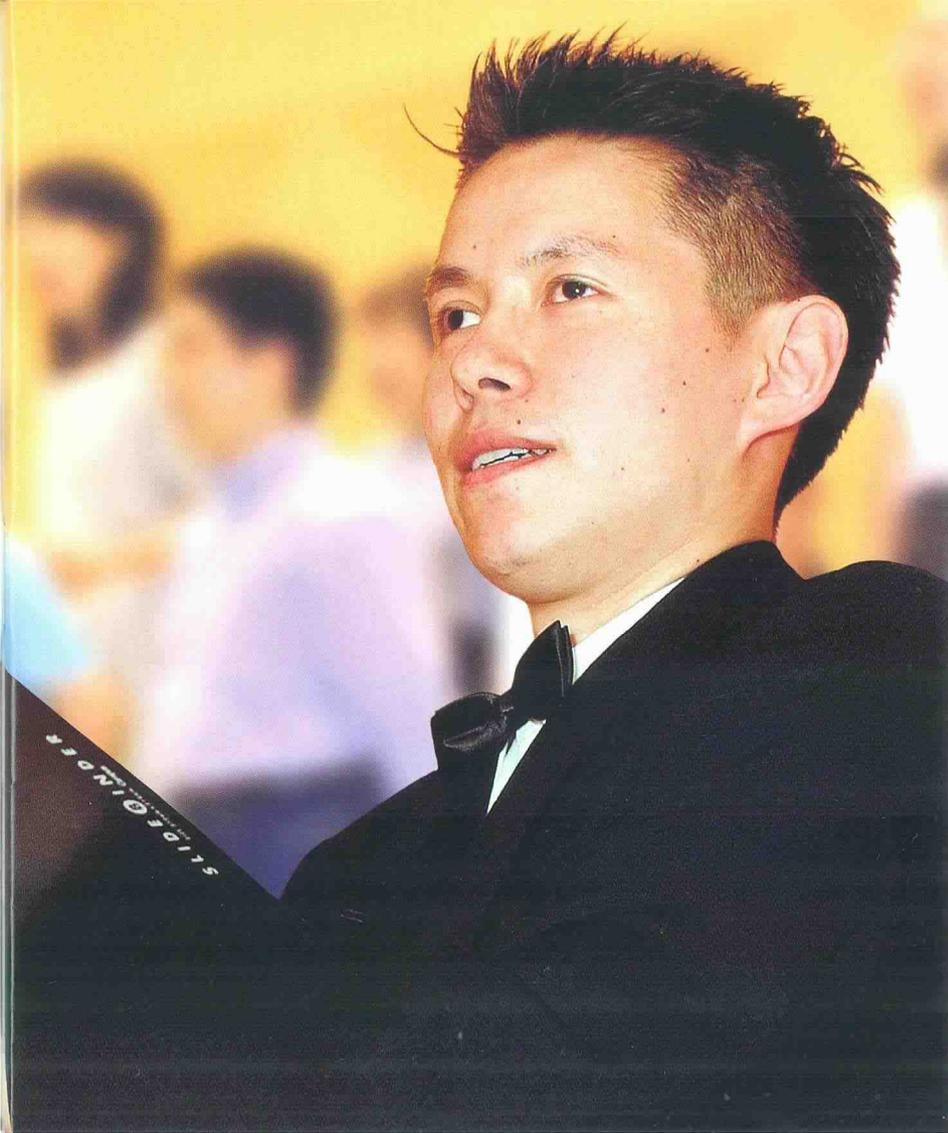
## 「わか町 谷山」

### 谷山 写友会

市街化が進む谷山地区。  
 でもこんな郷愁の残る風景があります。



「永田川上流の楽園」 田中 美智子さん



YOKA TIME  
よかタイム

## 合唱

### 鶴田 栄男さん

「家では特に練習はしていません」と鶴田さん。しかし、ひたむきな練習ぶりは、ほかの団員も認めるところです。「合唱があるから仕事もがんばれる。今うまく両立できているんですよ」。生き生きと語ります。

よかタイム  
5つの質問

**Q1** いつから合唱を始めたのですか？

3年前です。会社の同僚から、合唱団のクリスマス演奏会に誘われたのがきっかけでした。

**Q2** どんな曲を歌うのが好きですか？

ポップスのようなだれでも楽しめる曲が好きです。昨年12月に行われたアンサンブルコンテストに出場したときは、ビートルズの「ヘルプ」などを歌いました。

**Q3** 合唱をやっていると楽しいことは？

大きな声を出して歌っていると、仕事の疲れや嫌なことは忘れてしまいますね。

**Q4** 苦労するところは？

やはり技術面です。ほかの人より経験が少ないので、発声など基礎的なことを練習しています。

**Q5** コンクール以外に歌声を披露する場はありますか？

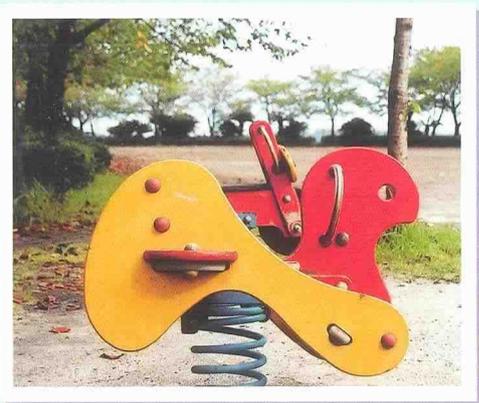
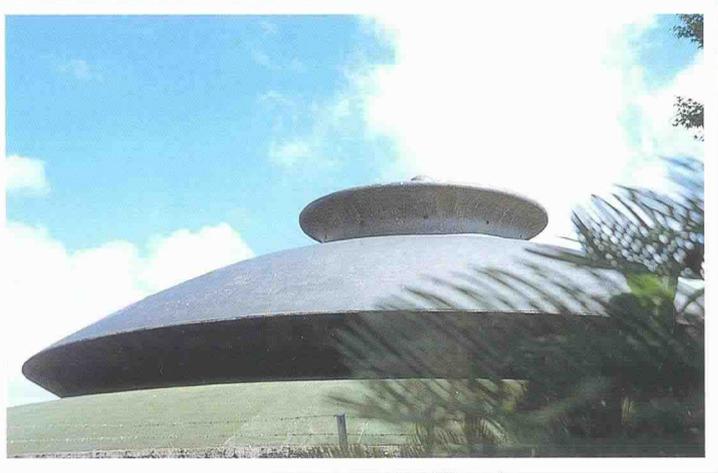
ボランティアで障害者の施設や病院などを訪れてコンサートを開いています。自分たちの歌が、たくさんの人に聞いて喜んでもらえるのがうれしいですね。



張り詰めた空気の中、歌声だけが響く。

# 街角

ウォッチング  
～星ヶ峯周辺～





## 足踏みオルガン

▲ペダルを踏むことで、空気の流れがけん盤の下のリードという板を振動させ、音が出る。ハーモニカやアコーディオンと同じ仕組みだ。

足踏みオルガンリードオルガンが日本でもつくられるようになってのは明治半ば。ピアノと比べて値段が格段に安く、場所もとらないことから、学校を中心に普及し、百年余りにわたって子どもたちに親しまれてきました。

昼休みの教室で、友だちと肩を並べ、片足ずつペダルを踏みながら弾いたあの音色は、幅広い世代に



▲小さな足で懸命に踏み、指をいっぱいに広げてけん盤を押す。子どもたちが手を挟まないようふたは取り外してある。

共通の思い出です。しかし、昭和40年代を過ぎると、電気オルガンが主流となり、足踏みオルガンは次第に教室から姿を消していきました。

東坂元二丁目の信愛保育園には、10年ほど前、「子どもたちの遊び道具に使ってほしい」と、一台のオルガンが贈られました。その願いどおり、今、子どもたちのにぎやか

な声がオルガンのやわらかな音と響き合っています。

たくさんの成長を見つめてきたオルガンは、その音色に優しさを込めて、今も変わらず子どもたちを見守っています。

## 西郷南洲顕彰館 「敬天愛人」



書幅「敬天愛人」は、明治8年3月に、西郷隆盛が※四方学舎のために書いたものです。昭和2年にこの学舎の人々が「覚書」を書いて、この書の由来を伝えています。

当館では、今年3月に建設した学習館の完成に併せて、「敬天愛人」を新しく表装しなおしました。立派で大きく、そして美しい書です。「敬天愛人」の書は、全国に10点ほどあるといわれ

ていますが、当館の作品が抜群の出来栄えではないでしょうか。

この鹿児島県指定文化財の「敬天愛人」は、南洲神社が所蔵するものですが、当館が預かり展示しています。

天を敬い、人を愛する…私たちは「敬天愛人」の精神も学んでいきたいものです。

(西郷南洲顕彰館館長 山田尚二)

### ※四方学舎

藩政時代に行われていた郷中教育の伝統を受け継ぐ鹿児島独自の教育形態として、明治以降に「学舎」が誕生しました。四方学舎はその学舎の1つで、始めは新屋敷復習所という名称で樋之口に設立されましたが、現在は南洲神社にあります。



# わが町上空 今むかし



昭和36年

## 東谷山

右の写真は今から40年前のもの  
です。

この辺りは、田畑に囲まれたのど  
かな地域でした。左端には、白砂青  
松の海岸線も見えます。

昭和42年4月に、旧谷山市と鹿児島  
島市が合併。昭和40年代〜50年代  
にかけて、急速に開発が進みました。  
産業道路が建設され、臨海工業地帯  
が誕生し、笹貫バイパスが完成。住  
宅やビルが立ち並び、にぎやかなま  
ちになりました。

昔の面影を残すのは、旧谷山街道  
とJR指宿枕崎線、市電谷山線。

市電の心地よい揺れは、40年前と  
変わりません。

現在

